

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 25 年 9 月 26 日 (2013.9.26)

【公開番号】特開 2013-149494 (P2013-149494A)

【公開日】平成 25 年 8 月 1 日 (2013.8.1)

【年通号数】公開・登録公報 2013-041

【出願番号】特願 2012-9373 (P2012-9373)

【国際特許分類】

H 0 1 B 11/02 (2006.01)

H 0 1 B 11/00 (2006.01)

H 0 1 B 7/00 (2006.01)

【F I】

H 0 1 B 11/02

H 0 1 B 11/00 A

H 0 1 B 7/00

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 8 月 8 日 (2013.8.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

測定方法及び判定方法

(1) 密着力測定

(1 - 1) 絶縁電線とシースとの密着力

図 3 に示すように、シース 6 の部分の長さを 3 5 m m としたケーブル 1 0 の端部から露出された一対の絶縁電線 1 をダイス 2 1 に形成された挿通孔 2 1 a に通し、ダイス 2 1 をシース 6 の端面に当接させる。一対の絶縁電線 1 の先端をクランプ 2 2 でクランプし、クランプ 2 2 をダイス 2 1 から離間する方向 (図 3 中矢印方向) へ引っ張る。これにより、3 5 m m の長さにわたりシース 6 から絶縁電線 1 を引き抜く。このときの最大の力を密着力として測定する。なお、絶縁電線 1 をシース 6 から引き抜く際の引き抜き速度は、1 0 0 m m / 分とする。

(1 - 2) 導体と絶縁体との密着力

図 4 に示すように、絶縁体 5 の部分の長さを 3 5 m m とした絶縁電線 1 の端部から露出された導体 4 をダイス 3 1 に形成された挿通孔 3 1 a に通し、ダイス 3 1 を絶縁体 5 の端面に当接させる。導体 4 の先端をクランプ 3 2 でクランプし、クランプ 3 2 をダイス 3 1 から離間する方向 (図 4 中矢印方向) へ引っ張る。これにより、3 5 m m の長さにわたり絶縁体 5 から導体 4 を引き抜く。このときの最大の力を密着力として測定する。なお、導体 4 を絶縁体 5 から引き抜く際の引き抜き速度は、1 0 0 m m / 分とする。

(1 - 3) 密着力比

絶縁電線 1 とシース 6 との密着力 (密着力 1) に対する導体 4 と絶縁体 5 との密着力 (密着力 2) の比 (密着力 2 / 密着力 1) を算出する。

(2) 伸び測定

シース 6 を構成する内部シース 2 及び外部シース 3 を同時に除去して絶縁電線 1 を露出させた際の絶縁体 5 の伸び寸法を測定する。

(3) 良否判定

シース 6 を構成する内部シース 2 及び外部シース 3 を同時に除去して絶縁電線 1 を露出

させた際の絶縁体 5 の伸びが 1 mm 以下である場合を合格 () とし、絶縁体 5 の伸びが 1 mm を超える場合を不合格 (×) とする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】

【表 2】

表 2

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	比較例 1	比較例 2	比較例 3
密着力 1(N/35mm)	60	63	61	53	60	58	53
密着力 2(N/35mm)	37	37	41	32	20	19	17
密着力比	0.61	0.59	0.67	0.60	0.33	0.33	0.32
絶縁体の伸び(mm)	0~0.3	0.3~0.5	0~0.2	0~0.3	1.0~1.2	1.0~1.5	1.5~2.0
判定(≤1mm)	○	○	○	○	×	×	×